

環境都市工学科

Department of Civil Engineering

夢を地図に残す 人のこと、社会のこと、自然のこと、安心な未来を創ろう

環境都市工学は、より安全・安心・快適に生活を営めるようにする社会基盤の整備について考える学問です。ここで重要な点は、人間の生活空間の都市化に対して、人と自然が共生したまちをつくることです。この学科で学んだことは、蛇口をひねれば出てくる水、都市や人を繋げる道路・鉄道・通信網、エネルギーを供給する電気・ガス、これらを考え合わせた都市・国土の計画から整備において活かされます。

取得可能な資格

測量士補：測量の講義・実習を修めて卒業し、申請するのみで取得可能
技術士第一次試験、環境社会検定試験（eco検定）、公害防止管理者：いずれも在学中に多くの合格実績あり



▲高専祭で専門学科の技術をアピールする催し(専門展)では、多数の賞を受けており、クラスのチームワークの良さやプレゼン能力の高さを証明しています。



▲環境都市工学は市民のための工学です。合意形成するために何が重要なのか、皆で議論し発表する機会もあります。



▲橋梁、道路、ダムなどの現場を見学し、学校での授業や実験実習が、どのように実務と社会に繋がっているかを体験的に学びます。



▲環境実験(左)、水理実験(右)の様子です。実験実習の多くは、複数名で班となり共同で行います。



▲ゼミ室(左)、教員室(右)では、学生と教員が気兼ねなく話せます。学習に関する質問はもちろん、日常や将来に関する懸念、相談もできます。



▲企業フェスティバル(左)、卒業生を囲んだ座談会(右)など社会人や先輩と交流することで職業意識の向上に加えて、自分の人生設計を描く能力をつけます。

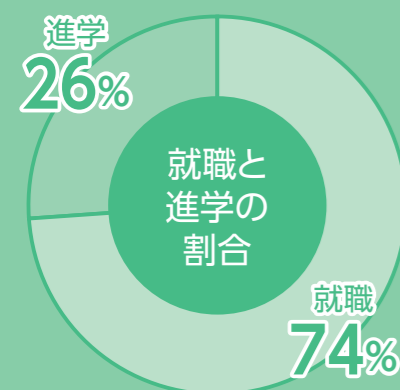
卒業後の進路状況 (過去5年間)

主な就職先

国土交通省中部地方整備局、経済産業省、岐阜県、大阪府、大垣市、大野町、一宮市、(公財)岐阜県建設研究センター、中部電力(株)、東邦ガス(株)、東京ガス(株)、大阪ガス(株)、東海旅客鉄道(株)、東日本旅客鉄道(株)、西日本旅客鉄道(株)、中日本高速道路(株)、五洋建設(株)、大日コンサルタント(株)、(株)テイクコ、(株)NTTフィールドテクノ、(株)NTTインフラネット、中部国際空港施設サービス(株) ほか

主な進学先

岐阜大学、長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学、北海道大学、金沢大学、広島大学、熊本大学、岐阜高専専攻科



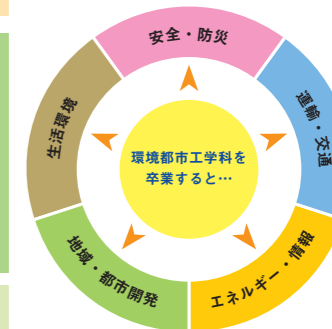
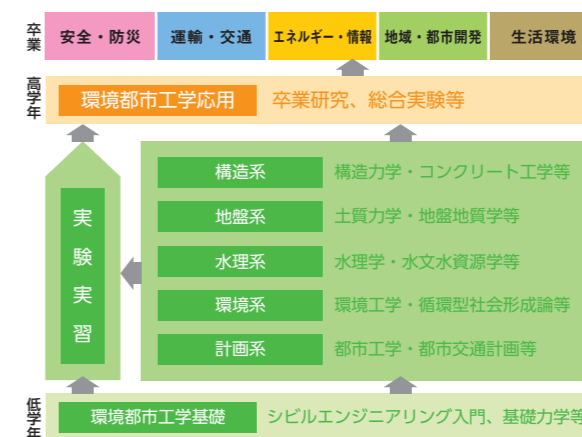
環境都市工学科で学ぶこと

1年生の専門科目はコンピュータリテラシとシビルエンジニアリング入門です。コンピュータリテラシでは、コンピュータを用いた記述・表現・計算から情報の基礎を学習します。シビルエンジニアリング入門では、環境都市工学が社会で果たす役割と自分が将来携わる仕事像の形成(キャリア形成)について、授業や見学等によって学習します。

2年生以降、学年の進行にしたがって、専門科目の割合が増えていきます。社会基盤の整備は、土、水、人、自然に関わりながら、構造物を作ったり、様々なものを繋ぎます。そのため、右図に示しました5系の分野の学習をします。各分野では、講義形式の授業と実習実験を並行して行います。

これにより、学習内容の理解を深められます。4年生以降、卒業生にサポートを得ながら、インターシップ、講演、座談会などのキャリア教育があり、自分が近い将来携わる仕事像を明確します。また、複数の分野を関係させる科目、より学術的な科目、より実務的な科目があります。

このような教育方法によって、自分にとってやり甲斐のある仕事に近づくとともに、社会にとって即効的で実践的な技術者に近づいていきます。



卒業生の声 Voice of graduates



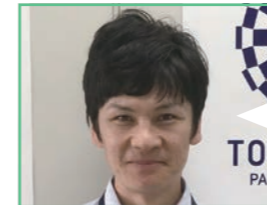
現所属 国土交通省 中部地方整備局
田中 真尋 (写真左)
令和元年度 卒業
笠松町立笠松中学校出身

現所属 国土交通省 中部地方整備局
父 田中 勝 (写真右)
平成3年度 卒業
山県市立伊自良中学校出身

勉学では、専門的な実験・実習・現場見学の機会が1年生からたくさん設けられているため、実務的な専門知識や将来働かだしてから必要となる現場感を身に付けることができる点は高専にしかない魅力だと思います。

進路では、民間企業・公務員・進学と幅広い選択肢があります。4年生の夏季には2週間インターシップの機会があり、また秋以降は様々な業界説明会が学内で開催されます。私の場合は国土交通省で働く父(本学科の卒業生)の姿にあこがれ、インターシップや説明会などに参加することで職場の雰囲気や仕事内容を自ら実感できました。また公務員試験の模試や面接練習などで、先生方が親身になってサポートして下さるため、とても恵まれた環境の中で進路を決定することができます。

5年間同じクラスのメンバーと高め合いながら充実した学生生活を送り、高専祭や研修旅行などのイベントで作った思い出は一生の宝物になります。このように高専にはとても楽しい学生生活が待っています。



現所属 岐阜県
森田 陽介
本 科：平成13年度卒業
専攻科：平成15年度修了
本巣市立糸貫中学校出身

自分が生まれ育った地元で働きたいという想いが基本にありました。その中で、県内で最も大規模な行政機関ではないかと考えたのが、岐阜県職員という職業でした。入庁してからは、土木技術職員として日々、県民のみなさんの生命と財産を守る職務を務めております。現在は、東京オリンピック・パラリンピック2020組織委員会に派遣され、競技会場の整備を担当するなど、幅広い分野で仕事をさせてもらっています。

高専生は5年間を卒業してから、専攻科進学、大学編入学もできますので、中学生のみなさんが将来の目標が決まっていなくても、選択肢の幅が狭まることはありません。高専生のクラスはメンバーがほとんど変わらないので、仲間との強いつながりができます。きっと楽しいですよ!

在校生の声 Voice of Current student

第4学年(平成30年度入学)

鳥居 大和 各務原市立中央中学校出身

私は、祖父母の自宅周辺で何度か発生した水害をきっかけとし、安心して暮らせる街を作りたいという思いが芽生え、社会基盤に関する基礎知識を学ぶために岐阜高専へ入学しました。

環境都市工学科では、3年生から構造力学・水理学・コンクリート工学・土質力学・測量・数理計画学など社会基盤の整備に関わる多くの専門知識を座学、実験、実習を通して学びます。クラスの仲間と試行錯誤しながら実験を成功させた時や実習課題を解決した時の達成感、チームワークはここからこそ、味わえると感じています。いずれ社会に出た時に必ず役立つ現場感覚や実践的な能力を身につけることができます。そのためには何事も努力です。

卒業後に、公務員・民間企業・大学進学と高専ならではの幅広い進路選択ができることも1つの魅力です。特に環境都市工学科では企業の説明会や卒業された先輩方の講演など今、社会に出て活躍されている方々の「現場の声」を聞く機会が多いため、進路選択のきっかけとなります。

クラスの仲間はそれぞれが持つ個性を遺憾なく発揮し、強いつながりを築くとともに充実した高専生活を送ることができています。

